



アゴラ — 鶴見大学図書館報 —  
第 146 号 2016 年 3 月 7 日発行  
編集・発行 鶴見大学図書館  
〒230-8501 横浜市鶴見区鶴見 2-1-3  
<http://library.tsurumi-u.ac.jp/library/>

## パラテキストから見える 西洋の世界 学生たちによる展示と解題 7

はじめに

書誌学特殊講義 2 担当 池田 早苗

鶴見大学図書館に収蔵される西洋古版本の面白さ、興味深さを、ひとり1冊ずつ担当して、自ら捉えて自分の言葉で、展示を見る人々に語っている—今回の展示をひとことで言うなら、このようになるだろうか。

「テキストの社会学」という言葉で語られた書誌学者 D. F. マッケンジーの理論は、21 世紀の私たちに向けて、一層の確かさを見せてくる。テキスト(本文)は、テキストの外側にあつて書物を作るもの(パラテキスト)と一体になって存在する。それらがあつて、テキストは伝えられる<sup>1</sup>。—これを認識すると、学生たちは目前の貴重書を観察しはじめた。観察して記録する。生まれてはじめて見た貴重書を前にすると、しばし言葉がないことがある、それをクラスで学んだいくつかの書誌学のことば、キャッチワード、シグニチャー・・・などに目を向け始めることで、それまで見えない、わからないと思っていたものが、本文の言語がラテン語などで難しく読めない場合でさえ、見えてくると実感する—何かを「発見」するのかもしれない。疑問点、興味深い点をあげ、図書館の本やインターネットでリサーチする、出てこない時もどのようにリサーチしたか記録する、それを読み返す。意見を一方的に主張する前に、観察し考察する実物—長い歴史・文化・社会をその一冊の書物が包含し示している存在(貴重書)—があることは、それに対峙する者にとってかけがえがないのではないだろうか。そうして語る学生ひとりひとりの言葉に、耳を傾けてくださることを願う。

### 展示

1 インキュナブラが伝えてくる—製本から見えること	今井綾	p. 3
2 そのランニングタイトルは何を指し示すか?	押田英之	4
3 アルドゥス・マヌティウスが『諷刺詩』を出版する上でもたらした影響	大関南	5
4 ああ 素晴らしき西欧芸術	近江慎之佑	6
	中村祥一朗	6
5 ミルトンの叙事詩『楽園追放』について	勝又理砂	7
6 パラダイスロストの空白	片岡なぎ	8
7 『ロビンソン・クルーソー』の歴史的背景と書物の歴史への影響	山内直紀	9
8 ジョナサン・スウィフトの見ていた物語『ガリヴァー旅行記』	中村玲菜	10
9 書の芸術と発達	川端優希	11
10&11 ケルムスコット・プレスーウィリアム・モリスの目指した理想の書物	今井綾香	12
	竹内友里	12

<sup>1</sup> D. F. マッケンジー『テキストの社会学』D. F. McKenzie, *Bibliography and the Sociology of Texts* (London: British Library, 1986)

図書館における展示の際、作成したカタログの表紙、裏表紙、および背景の画像は、鶴見大学図書館貴重書室に収蔵される書物を撮影したものです。それらに掲載した画像は、次の通りです。

表紙の○の中の画像を上の段の左から時計回りで：

- D. デフォー『ロビンソン・クルーソー』(1719年)第2版、口絵
- H. N. ハンフリーズ『書の芸術の誕生と進歩』(1855年)表紙、パピエマシェ
- 『聖グレゴリウス1世による]説教集』(1493年)
- 『聖書』 T. ケルヴァーによる印刷(1534年)小口
- ウィリアム・モリス(1834-1896)の肖像 ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館蔵

表紙及び裏表紙全体の背景：

- 『聖書』 T. ケルヴァーによる印刷(1534年)見返しのマーブル紙

裏表紙の画像を上段、左から時計回りで：

- 『プリスキアヌス作品集』(1495年)
- ユウェナリス、ペルシウス『諷刺詩』(1501年)背表紙
- J. スウィフト『ガリヴァー旅行記』初版(1726年)口絵、スウィフト像
- J. ミルトン『楽園追放』(1669年)タイトルページ
- J. ミルトン『楽園追放』(1688年)第4版

※[図書館アゴラ編集]学生原稿の後にカタログの表紙と裏表紙を付けてあります。

## 展示 1

インクynaブラが伝えてくる—製本から見えること  
『[聖グレゴリウス 1 世による]説教書』(ヴェニス、1493 年)  
[*Homiliae super Euangeliis*], [Gregorius I, the Great Saint Pope]  
(Venetijs: Peregrinum de Pasqualibus, 1493)

3 年 今井 綾

### 製本のこと

この本の特徴は「背バンド」と「留め金」が付いていることだ。本の背にこぶの様にボコッと出ている部分が 3 箇所あるのが見て分かると思うが、これは①「背バンド」という。①「背バンド」は、折丁を固定し、表紙と見返し、中身を接合したときの芯となる部分である。またこの本は、紙に文章が印刷されているが、中世の写本は獣皮に文字を書いていたので、しわができたりに、反ってしまうことがあった。それを防ぐために重い表紙を付け、小口に②「留め金」をつけて本を閉じておくようにしているのである。古い製本の伝統を受け継いでいることを②「留め金」が物語っている。

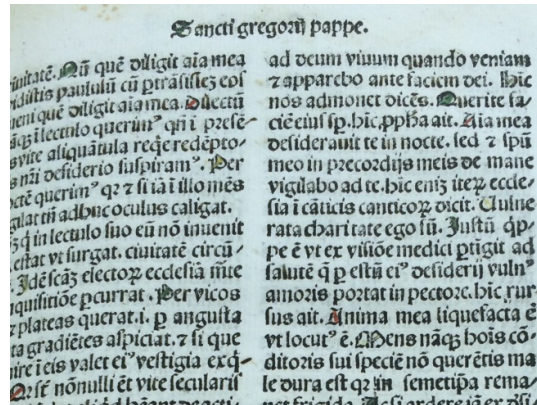
これらは、写本の時代から続いたインクynaブラ時代の製本の特徴のひとつである。インクynaブラとは、“初期”や“揺籃時代”を意味し、グーテンベルクの活版印刷術発明から 1500 年までの活版印刷の時期を指す。



①「背バンド」という。①「背バンド」は、折丁を固定し、表紙と見返し、中身を接合したときの芯となる部分である。またこの本は、紙に文章が印刷されて

### 本文のこと

文章の始まりの大文字が、赤色と青色の装飾頭文字で書かれている箇所と、頭文字が赤色、緑色、黄色で塗られている箇所がある。これは“文章の始まり”を意味している。



パラパラとページを捲っていると、装飾頭文字が書かれず空白のままのページが存在した。このようなページがあることにより印刷工程が見える。本文印刷後に装飾頭文字や見出し文などを装飾画家やルブリケーター (rubricator) と呼ばれる職人が手書きで書き入れるため、その部分を空白にして印刷しているのだ。一文字一文字にお金がかかるため、お金が支払えず、仕事を依頼出来ず空白のままなのだろうか…

現代のように大量に生産されている本では出会えないような事に、出会える。見た目よりも存在感が上回っており、とても魅力ある本である。

## 展示 2

そのランニングタイトルは何を指し示すか？

『プリスキアヌス作品集』（ヴェニス：フィリップ・ピンキウ、1495年）

[Opera: Priscianus; edited by Benedictus Brognolus; partly with  
a commentary by Joannes de Aingre] (Venetiarum: Philippu Pinciu, 1495)

3年 押田 英之

本書『プリスキアヌス作品集』で注目したい  
ところは3つある。

### 1. 旧蔵者の紋章

この紋章は、盾の形をしており「エスカッション」と呼ばれる種類のものだ。盾はイギリス式の紋章であり、紋章の下に書かれた「Edmond Nolan」なる人物は、イギリス人だったということがわかる。また、十字のラインはクロスと呼ばれ、盾を4分轄盾の形をし、それぞれの部位に何の絵が入っているかによって意味が変化してくる。この紋章には獅子の絵が入っており、「勇壮」という意味が込められている。これらから「Edmond Nolan」という人物は、貴族で本書を個人所有していたと考えられる。

### 2. コロフォン(奥書)

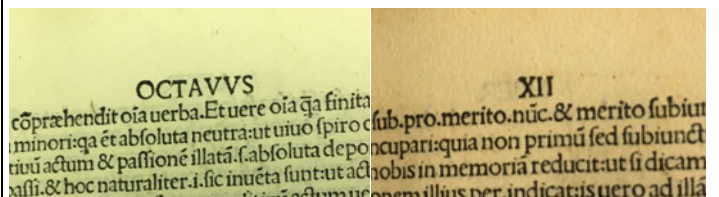
裏表紙の見返し部分に、書誌情報が記された張り紙が存在している。ここには、タイトル、奥書、書誌形態の順で記されているのだが、本書に書かれているタイトルと書誌情報のタイトルに一部違いがある。本書では「f」となっている部分が、書誌情報の方では「s」となっている。しかし、すべてがそう変換されているわけではなく、箇所によっては「f」のままの部分もある。いくつかの考察もあったが、「プリスキアヌスの作品集」が刊行された当時は、「f」、現在では「s」とされている単語が存在しているという可能性が一番高いと考えられる。特に変化が確実なのは、「ff」と二つ続いている部分である。

### 3. ランニングタイトルの意味

「ランニングタイトル」とは、本文の上にかかれた「題」のようなものである。本書のランニングタイトルは、章の数字を表すものであると考えられる。この考察は、後半に出てくるローマ数字のランニングタイトルからである。だが、ローマ数字とラテン語の両方が使用されているため、そうだと決めつけることはできない。中でもOCTAVVSやNONVSは、英語の10月OCTORBER、11月NOVEMBERに似た形を取っているため、月を表しているようにも思える。また、単語は共通して最後に「VS」が付いている。これは、小口に書かれた「PRISCIANVS」の最後の部分と同じ形だ。このような形がとられているのは、プリスキアヌス本であるということを強調するためだろうか。いくつかの可能性が見える本書のランニングタイトルは、一番の注目度であるだろう。



↑小口に書かれたタイトル



↑ランニングタイトル↑

展示 3

アルドゥス・マヌティウスが『諷刺詩』を出版する上でもたらした影響

ユウェナリス、ペルシウス『諷刺詩』

(ヴェネチア：アルドゥス・マヌティウス、1501年)

Iuvenalis; Persivs, [Satyres] (Venetiis: in aedibus Aldi, 1501)

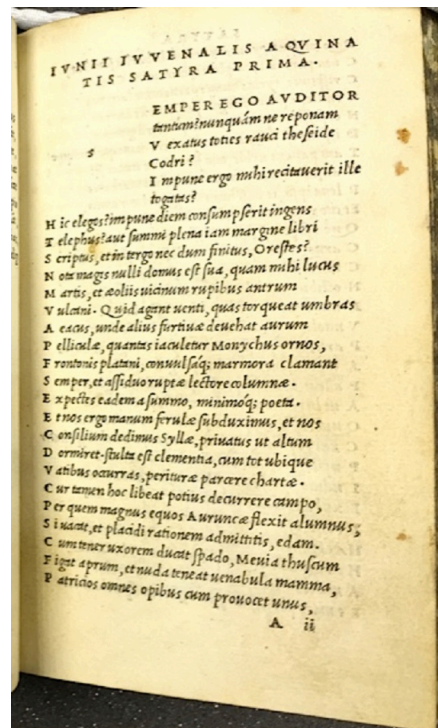
3年 大関 南

本書は、アルド体活字を使って印刷された二番目の書物である。アルド体活字というのは、イタリア・ヴェネチアにて活躍した印刷職人、アルドゥス・マヌティウスが開発したイタリアック活字のことを意味している。

本書の大きさが15.3×9.6cm、判型が八折判と他の西洋の書物に比べて非常に小さく、現代でいう文庫本に近い大きさで、持ち運びができるのが大きな特徴である。それまでの西洋の書物は大きな判型が多く見られたが、そんな中、彼は今まであまり見られなかった八折判を積極的に採用した。この点が彼によって印刷された書物の大きな特徴の1つであり、この八折判の採用によって、書物が簡単に持ち運べるようになり、書物史全体においても大きな影響をもたらした。

中を開いてみると、ページの上下左右が余白を多く占めている。文章はラテン語で成り立っており、各ページ上部にはそれぞれ大文字で言葉が印刷されている。ページの右下に目を向けると、それぞれA~H・a~b・ローマ数字のi~iiiiを組み合わせて、シグネチャーが成り立っている。これらの点は、本書をはじめとした初期印刷本の特徴である。(右図参照)

(図)『諷刺詩』本文1ページ目



#### 展示 4

ああ、素晴らしき西欧芸術

『聖書』(パリ：T. ケルヴァー、1534年)

*Biblia sacra: Integrum vtriusque testamenti corpus cōplectens diligenter recognita & emendata:*

(Parisiis: Ex edibus yolāde bonhōme vidue T. Keruer, 1534)

3年 近江 槇之佑

中村 祥一朗

#### 【金箔 (ゴーフアリング)】

この本で目立つところは、金箔が施されている箇所と見返しのマーブル模様です。金箔が施されている箇所を小口といい、この技術をゴーフアリングといいます。金箔の部分をよく見ると模様があります。ゴーフアリングとは、金箔、もしくは銀箔に熱した押し印を押し付け、模様をつけていく技術のことを言います。また、金箔を使っているため、ゴーフアリングをすること自体にもそれなりの資金が必要とされていて、贈り物やコレクションのためにするとされています。この聖書の出版された16世紀には、ゴーフアリングの技術はまだなかったために、この本自体の最初の製本はもっと質素だったと考えられ、この本が人から人に伝わっていく段階で、または後代になって買った人がゴーフアリングを施したと考えると間違いはないでしょう。

#### 【マーブル模様 (マーブル紙)】

次に、見返しのページに施されている、幾何学的な模様、マーブル模様についてです。このような模様、いろいろなところでみなさんは目にしたことがあるのかもしれませんが。

このマーブル模様には、模様によって種類(名前)、法則があります。

今回のこの聖書に使われている模様は櫛目模様(ダッチ)と言われているもので、この模様が主に使われていたのは、17世紀のものとされています。ですから、このマーブル模様も、ゴーフアリングと同様に、出版より後に施されたと言えるでしょう。もしかしたら、ゴーフアリングとマーブル模様すら別々に施された可能性もあります。

マーブル模様はもともとドイツの技術で、書籍ではなく家具などに使われてきました。フランスに伝わった当初から書籍にのみ使う目的でマーブル紙の製造が始まったため、このパリ出版の本など、初期のマーブル紙が書籍と一緒に残っているのです。

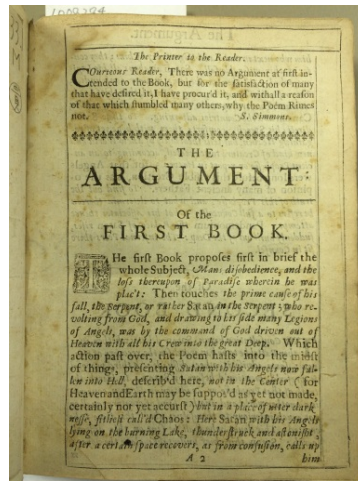
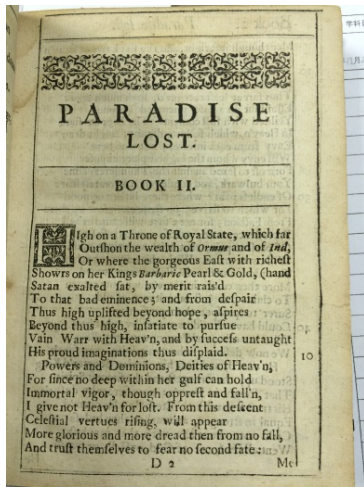
展示 5

ミルトンの叙事詩『楽園追放』について  
ミルトン『楽園追放』(ロンドン: シモンズ、1669年)

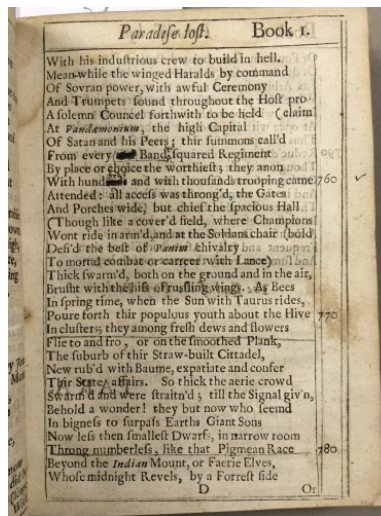
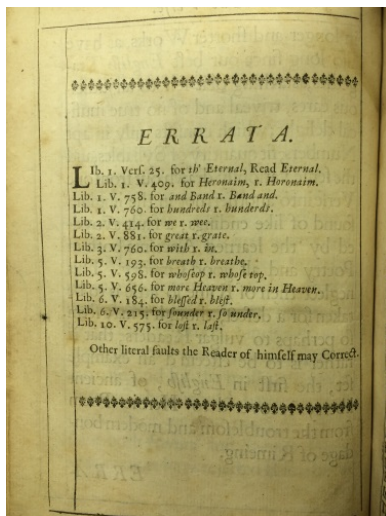
John Milton, *Paradise Lost: A Poem in Ten Books* (London: Simmons, 1669)

3年 勝又 理砂

ミルトンの『楽園追放』*Paradise Lost* は、聖書の創世記から題材をとった叙事詩です。サタンが地獄に落ちるといふ出来事の途中から始まること、真理と正義についての訓練の提供、百科事典的な内容などの叙事詩の伝統を踏襲していますが、従来とは違い、聖書に素材を求めています。木版で枠が印刷されていたり、各章の最初の文字が装飾され大きく印刷されるなど、聖書にみられるような印刷がされています。



この本の最初の方のページに ERRATA という題名のついたページがあり、その冒頭に Lib. と書かれています。Errata は英語で正誤表、Lib はラテン語の liber の略で、liber は英語では book となります。この本は章が Book 1, 2 と別れているので、印刷ミス訂正箇所の一覧であると思われます。この頃の印刷本にはページ数が書かれていませんが、その代わりに詩の横に、10行ごとに行数が印刷されているため、Book 1の何行目というように表されています。



展示 6

パラダイスロストの空白

ミルトン『楽園追放』第4版（最初の挿絵版）

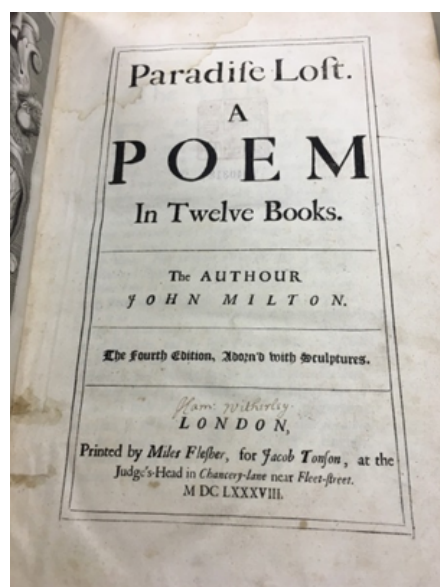
（ロンドン：フレッシャー、1688年）

John Milton, *Paradise Lost*, 4th ed., adorn'd with sculptures

[by R. White and M. Burgesse]

(London: Printed by M. Flesher for J. Tonson, 1688)

3年 片岡 なぎ



注目して頂きたいのは、*Paradise Lost* の「s」の文字です。小文字の「f」に酷似していると思いませんか？

実はこの文字「f」は「s」の別の形なのです。19世紀以降から一般的になった「s」（短いs）と区別するためにそれまで使われていた「f」は「長いs」と呼ばれました。長いsは小文字のみで、大文字は短いsと同じく「S」となります。この『楽園追放』の作者ミルトンはイギリスの詩人です。イギリスでは、1795年から1810年頃に短いsを用いる正書法へ変更されました。この『楽園追放』は1688年出版のものなので、長いsが一般的に使用されていた時代で、小文字の「s」は「f」と印字されたものと、「s」との両方があり、その位置などルールに従って使い分けられました。



展示 7

『ロビンソン・クルーソー』の歴史的背景と書物の歴史への影響  
ダニエル・デフォー『ロビンソン・クルーソー』第2版（ロンドン：テイラー、1719）

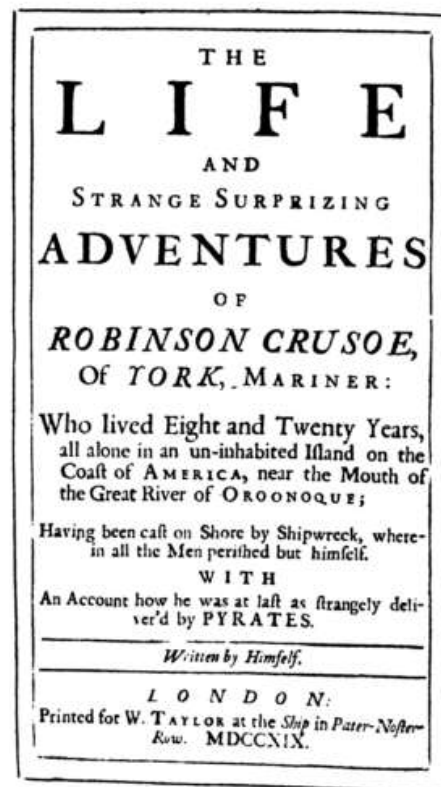
Daniel Defoe, *The Life and Strange Surprising Adventures of Robinson Crusoe  
of York, Mariner*, 2nd edn (London: Printed for W. Taylor, 1719)

3年 山内直紀

本の扉ページには、

難破して全員が犠牲になったが  
ひとり岸に打ち上げられ  
アメリカ海岸 オルーノクの大河の  
河口近くの無人島で  
28年間たったひとりで暮らした  
ヨークの船員  
ロビンソン・クルーソーの生涯と  
ふしぎで驚きに満ちた冒険  
および、最後には、彼が奇しくも  
海賊の手で救出された  
いきさつに関する本人による手記

ロンドン：パタノスター街の  
W・テイラーのために印刷  
1719年



と記されている。

これまで単なる冒険小説として考えられていた『ロビンソン・クルーソー』は、ヨーロッパ諸国が先を争って権利を得ようとした大航海時代、芽生え始めた資本主義精神や宗教抗争などの時代背景から、経済的な思想や宗教的な思想にまで影響を与えた書物とされた。

また、本書は、しばしば「英語で書かれた最初の小説」とも呼ばれることがあり、イギリスの小説文化の発展に寄与したものと考えられている。

さらに、「18世紀後半に始まる大衆的で圧倒的な書物・出版文化は、子どもの世界にも浸透」していったとあるように、活版印刷の技術が浸透して、それまで裕福な大人だけのものではあった本の大衆化が進んだ。活字印刷を背景にした書物の大衆化の流れに沿い、後に出版される『ガリヴァー旅行記』などの冒険小説とともに、子どもの書物への入り口となる役割も果たしたものと言えるだろう。

## 展示 8

- ジョナサン・スウィフトの見ていた物語『ガリヴァー旅行記』  
J. スウィフト『ガリヴァー旅行記』初版（ロンドン：モッテ、1726年）  
[J. Swift], *Travels into Several Remote Nations of the World: in Four Parts:*  
*by Lemuel Gulliver* (London: Motte, 1726)

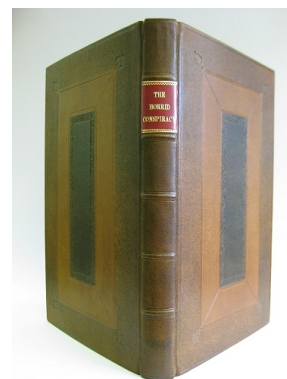
3年 中村玲菜

本書は全2冊で構成されています。タイトルは、*TRAVELS INTO SEVERAL | Remote Nations | OF THE WORLD* で、本文に「キャッチワード」「ランニングタイトル」「ページ付」「ギャザリング」「チェインライン」ともに見られます。本を開くと見返しの部分に、前に所有していたと思われる人の蔵書票が貼られています。そこには「NANHORON 1935」と明記されており、上下2冊ともに貼られています。

遊び紙の後には、表題ページ、目次と続いています。1冊目は、タイトルページの左隣に作者のジョナサン・スウィフトと思われる肖像画が載っており、若い時ではなく少し年を取った頃の画像と感じ取れます。スウィフト(1667年-1745年)は、59歳の時に『ガリヴァー旅行記』を書いた事になります。肖像画から、その絵がスウィフト像であり、18世紀に作品が完成したことが分かります。

本文の内容は、基本的にはローマン体で書かれていますが、所々イタリック体とローマン体を変化させた字体で書かれています。本文内には、装飾が施されておりとても美しいものです。作品自体は主に活字で印刷されていますが、物語の内容に沿って地図等の画像が所々に描かれています。本書の内容は、風刺の効いた作品として多くの国に広く知られています。

装丁は牛革のケンブリッジパネル（右図を参照）を使用し草花を感じさせる刺繍のような彫が施されています。このケンブリッジパネルは1650年頃から18世紀前半の頃に広く用いられたイギリスの伝統的な装丁です。時代的にみて装丁方法に違和感はありません。しかし、背表紙には金がふんだんにあしらわれ、この金を豪華にあしらったものは19世紀にみられる特徴です。この特徴から、後から背表紙に手を加えて直したと考えられるのです。



ケンブリッジパネル by J Hewit & Sons

また、タイトルページにはしっかりと印刷年代と誰が印刷したかが記されています。記載では、ロンドンで1726年にMOTTE(モッテ)という印刷所が印刷した事が分かります。

本文紙の質について、1冊目の方が2冊目に比べて、サラサラと触り心地がよく上質な紙を使用しています。

本文は活字ですが所々の装飾が美しく、表紙、背表紙の装丁も金や刺繍のような華麗なデザインで、読むだけではない、鑑賞としての本として楽しませる作品となっています。

展示 9

書の芸術と発達

H. N. ハンプリーズ『書の芸術と発達と進歩』（ロンドン：デイズ・アンド・サン、1855年）

Henry Noel Humphreys, *The Origin and Progress of the Art of Writing*, 2nd ed.

(London: Day & Son, 1855)

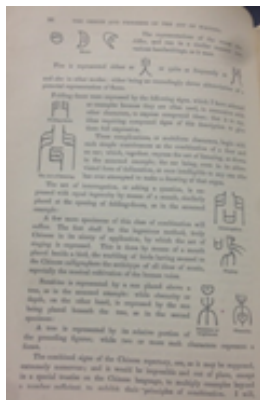
3年 川端優希

【表紙】

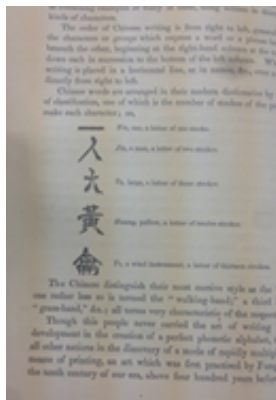
作者であるヘンリー・ノエル・ハンプリーズは、イタリアで学んだ装飾写本の魅力を吸収した優れた才能の持ち主であり、活力と豊かさをもつ現代的な本を再創造しました。背表紙はモロッコ皮。表紙・裏表紙はパピエ・マシェと呼ばれる粘土で作られています。フローラルのデザインでかたどり、プレスされていて、背景には赤の紙をおいています。表紙の *The history of writing* の頭文字「T」は、表紙に溶け込んだ草葉のデザイン性高い作りになっています。とても細かく美しい作りで、彼の繊細な感性が伝わってくると思います。

【内容】

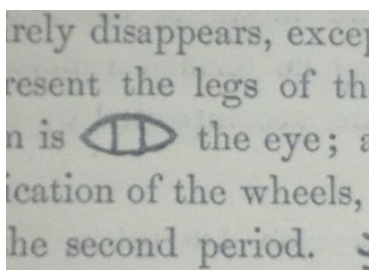
19世紀には書き留められた言語こそ文明を表すものだとする思想があり、本書も古い書体の研究が、文化の歴史と進歩を示すことを念頭において書かれています。ページを読み進めてみると、象形文字や漢字なども書かれていることから、言語の進歩や発達を書き留めていることが分かります。



(26 ページ)



(32 ページ)



(29 ページ)

このように、目の形のイラストの隣に「the eye」と書かれているのも、書体の起源を記していることがとてもよく分かる部分です。

ケルムスコット・プレスーウィリアム・モリスの目指した理想の書物

3年 今井 綾香  
竹内 友里

ウィリアム・モリス(1834-1896年)

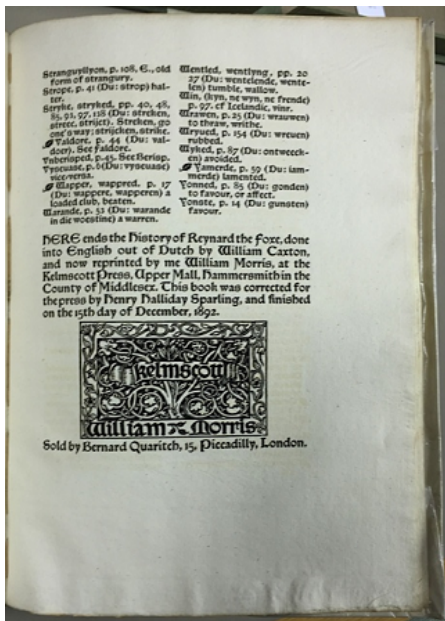
イギリスの作家で、装飾デザイナーとしても刺繍や建築にも携わっており、社会主義者でもあった。民衆文化に基本を置いた総合芸術としての装飾を常に志向した。自身の目指す「理想の書物」を作るために 1891年、ケルムスコット・プレスという私家版印刷工房を設立した。

モリスの目指した「理想の書物」

モリスはケルムスコット・プレスを設立した際に自身の「理想の書物」を作ることを目的としていた。そして、そのためにこだわったのが用紙、活字、活字組の字間と行間や版面の配置、彩飾や挿絵、縁の装飾などだった。「まったく無装飾の書物であっても、それがいわば建築的によいものならば、醜くないばかりか、実際に美しく見えるものだ」とモリスは断言している。その建築的な配列として要請されるのが「第一に、版面が鮮明で読みやすくなければならない。第二に、そのためにはどうしても活字のデザインをよくする必要がある。そして第三に、余白を狭くしようと広くしようと、版面との釣り合いがうまくとれていなければならない。」(ウィリアム・モリス著『理想の書物』(東京:晶文社、1992年)、p.147)という3つの項目であった。これらの条件を満たすためにモリスは以下の点にこだわったのである。

●用紙

用紙は特注の手漉きの紙で尚且つ材料はリネンでなければならない。また、充分ににじみ止めの樹脂石鹸が塗られたハードで簀目でなければならない。この用紙に入れる透かし模様は花と川魚とリンゴの三種類のデザインがある。また、少数ではあるが特別版としてヴェラム(子羊や子牛などを処理した高級皮紙)に印刷されたものもある。



『レイナード狐物語』奥付

●活字

ケルムスコット・プレスの活字は、モリスがローマン体を手本として最初にデザインしたゴールデン活字、2番目にデザインし、『トロイ物語集』に初めて使われたことからトロイ活字と呼ばれるゴシック体の18ポイントの活字、そして最後に『ジェフリー・チョーサー作品集』のために3番目にデザインした、トロイ活字を12ポイントにしたゴシック体の活字であるチョーサー活字の3種類が存在する。この活字の面においてモリスがこだわったのは簡素で地味であること、線が太くなくなったり細くなったりしないがっしりしたものであること、横に押しつぶしたものにしないことだった。

## ●余白

見開き 2 ページを書物の一単位とし、ページの内側(綴じ目側)の余白を最も狭く取り、上はそれより広く、外側はさらに広く、下の余白は他の余白と比べて最も広く取らねばならないとした。この法則は中世の書物では守られたものであった。他にも字間は余分な余白が入らないように父型活字の側面を垂直にすること、単語と単語の間隔(語間の余白)は最小の区切りして余計な余白は入れないようにすること、行間は必要以上に広くしないことなどの決まりがあった。

『レイナード狐物語』 ([ハマースミス]: [ケルムスコット・プレス、1893 年])

*The History of Reynard the Foxe*, trans. from Dutch to English by William Caxton

([Hammersmith]: Kelmscott Press, [1893])

『レイナード狐物語』は中世に西ヨーロッパで流布した動物寓話詩。一つの作品、一人の作者ではなく複数の異なる作者によって作られた枝篇の総称。狐ルナール(レイナード)の悪党ぶりを愉快地に描き出している。オランダ語のものをウィリアム・キャクストンが英訳し 1481 年に刊行した。その版をモリスが復刻し、バーナード・クオリッチ社より 1893 年 1 月 25 日に刊行した。手漉紙刷本とヴェラム刷本の 2 種類があり、本書は手漉紙刷本だと思われる。小口が切り離されていない折込み装本で、ヴェラム装革表紙。背から表紙平の裏の上中下を通す 3 本の紐が付いている。手漉紙刷本は限定 300 部で価格 3 ギニー、ヴェラム刷本は 10 部価格 15 ギニーで刊行された。社会主義者であったモリスは、民衆の芸術を目指していたが、お世辞にも安く手に取りやすいとは言えない。

(竹内友里)

『花と葉、愛の神キューピッドの本、郭公と夜啼鳥』 F. S. エリス編

([ハマースミス]: [ケルムスコット・プレス、1896 年])

*The Floure and the Leafe, and the Boke of Cupide, God of Love, or the Cuckow*

*and the Nightingale*, [ed. by F. S. Ellis] ([Hammersmith]: [Kelmscott Press], [1896])

『花と葉、愛の神キューピッドの本、郭公と夜啼鳥』は、2 種類の詩が一冊にまとめられている。『花と葉』は、森に迷い込んだ娘が、葉の精に仕える貴婦人から、葉の精を崇めるか花の精を崇めるかを問われる 595 行の寓意詩。『愛の神キューピッドの本』は、早朝に森に出掛けた老詩人が、夢のなかで郭公と夜啼鳥による愛の神をめぐる恋愛談義に耳を傾ける 290 行の論争詩である。灰青色の厚い表紙に布の背。原装本のため表紙とタイトルページの 2 カ所にタイトルが表記され、前後の遊紙の枚数が多くなっている。この部分は製本時にいらないと判断した分を切り取るため、製本済みの本には存在しない。本文は赤と黒の 2 色刷りで、使用されている活字はトロイ活字。各章の冒頭の装飾以外に装飾は見られない。余白や行間などはモリスがこだわった「理想の書物」の特徴を持っている。奥付からは、この本が 1896 年 8 月 21 日にケルムスコット・プレスから出版されたことがわかる。

(今井綾香)



第61回 貴重書ミニ展示

## パラテクストから見える 西洋の世界 学生たちによる展示 7

展示期間：2016年1月21日(木) - 27日(水)

展示場所：鶴見大学図書館1階エントランス



**PRIMVS**  
 at dissimiles aliis figuris non  
 xpono secūdum hoc q̄ figuras la  
 ere h. non est littera qa caret potest.  
 aim & cōmendationem p̄bationis: qu  
 am: uel oīa accidētia. Ecce hic habemus  
 tteræ Neq̄. n. uere caret potestātē litte  
 uo. nō est: qui  
 i. per se non  
 quia neq̄ fer  
 nes dicit p̄  
 apocop  
 do sit  
 quia a se uocem nō  
 a latina uel græ//  
 nec muta cū in  
 ut phthi/  
 mutio



Paradise lost.  
 A  
**P O E M**  
 IN  
 N B O O

## 図書館からのお知らせ

### 図書館入館管理システム導入

図書館の入口に、入館管理システムのゲートが設置されました。学生証、教職員身分証、図書館利用カードを読み取って扉が開きます。いずれかのカードを必ず携帯するようにしてください。

4月上旬から試行、5月連休明けから本稼働です。

詳細はホームページ等でお知らせします。

## 図書館アゴラ編集より

### 今号の掲載内容について

「学生たちによる展示と解題」はそれぞれの学生が工夫をこらして作成した原稿を、できるだけそのままの形で掲載しました。ただし、最低限の制限は設けました。そのため、著しく形式を損なうことがない反面、例えばこのフォントを使いたいなどの希望を全てかなえられなかった面もありますことをご容赦ください。

アゴラ－鶴見大学図書館報－ 第146号 2016年3月7日発行

編集・発行 鶴見大学図書館

〒230-8501 横浜市鶴見区鶴見 2-1-3 Tel:045-580-8274 Fax:045-584-8197

鶴見大学図書館ホームページ <http://library.tsurumi-u.ac.jp/library/>